

令和7年度静岡県緑化推進有識者会議 委員意見（要約版）

日 時：令和7年9月29日（月）

場 所：静岡県庁

1 出席委員

所 属 職 名	氏 名	緑 化 推 進 有 識 者 会 議
一般社団法人公園管理運営士会 専務理事・事務局長	飯塚 克身	委 員
静岡大学 地域創造学環教授	水谷 洋一	座 長
やざわ花育種株式会社 代表取締役 葉乃畑合同会社 代表	矢澤 秀成	委 員
静岡県教育委員会前委員	渡邊 靖乃	委 員

（五十音順）

2 発言内

●取組番号1 緑化資材の提供（静岡県グリーンバンク）

発言内容	発言者
これまで配布したことがない種類の球根を配布したとのことだが、さらに一步踏み込んで、市販のものに加え、静岡県固有のツツジなど、絶滅危惧種とまではいかなくとも希少な種を増やして配布することを検討してはどうか。このような取り組みは、系統の維持や県民の関心の広がりにも寄与すると思われる。 また、近年の球根価格の上昇に対して、生のものではなく冷凍された球根を活用することも有効であると考え。	矢澤委員
静岡県にはどのような固有種が存在し、どれだけ貴重であるかを県民に周知することが重要と考える。	飯塚委員
緑化活動団体数が徐々に減少している現状を考えると、補助の件数を増やすことも重要だが、補助の「質」を充実させることが、今後の緑化施策に必要ではないかと考える。 すぐに対応するのは難しいかもしれないが、例えば、入札参加資格に冷凍球根の取り扱いや固有種への対応可能性を条件として加え、新たな業者参入を促進することで、施策の質が向上すると思える。	渡邊委員

●取組番号 8-2 安全で美しいいえなみ整備（住まいづくり課）

発言内容	発言者
生け垣を整備した家では、適切な手入れが行われず、地方自治体に対応せざるを得ない事例が発生している。生け垣の整備には多額の費用がかかるケースも見受けられるが、この事業における助成実績で、1件あたりの県、市町、自己負担の額は概ねどの程度になっているか教えてほしい。	飯塚委員

●取組番号 9、10、11 芝生関連事業（環境ふれあい課）

発言内容	発言者
今年は酷暑に耐えうる芝生の管理方法について講演の機会が増えている。ぜひ静岡県主催の研修等にもそのような取り組みを導入してほしい。 また、酷暑に強い芝の品種選抜や品種育成にも取り組んでほしい。現在暑さに強い芝が求められており、そのような芝の品種改良や暑さへの対応を研究するべきである。 さらに、暑さに強い芝の品種を県有施設に入れることは可能か検討してほしい。	矢澤委員

●取組番号 12 工場緑化セミナー・緑化優良工場等表彰（企業立地推進課）

発言内容	発言者
工場緑化においては、地域住民との関わりを深めることが重要である。例えば、緑化に取り組んでいる工場等に一般公開日を設けることで、企業の理念や取り組みを地域の方々に伝える良い機会になるのではないかな。	飯塚委員

●取組番号 15-3 公共施設の緑化（日本平夢テラス）（観光政策課）

発言内容	発言者
今後のインバウンド需要を考慮すると、見栄えの良い公園が求められる傾向にあると思う。 評価シートに使用された写真についても、取組をPRするためには、より魅力的で印象的な写真を使用してほしい。	飯塚委員

●取組番号 16 県立森林公園アカマツ林再生（環境ふれあい課）

発言内容	発言者
苗木は県立森林公園に生えている松の種を使用して育成しているとのことだが、その理解でよいか。 私自身も善光寺で同様の取り組みを行っている。子どもたちに種を採取してもらい、育苗を進め、10月に初めての育樹ができる予定である。	矢澤委員

●取組番号 19 さくらの保護育成（環境ふれあい課）

発言内容	発言者
私は「桜守」として活動しているが、近年は人材不足が深刻で大変な状況である。そのような意味で、「さくら功労者」の表彰は非常に良い取り組みだと思う。 しかし、桜守だけでは桜の維持が難しいため、地域の皆さまにも桜の管理方法を伝え、一緒に活動していかなければ、日本の桜を守り続けることは困難である。現在、多くの桜が根を痛めており、根を育てなければ木全体が健全に成長しない。この根の重要性を地域住民に共有し、桜守だけに頼らず、地域の桜を地域住民で守る意識を醸成することが重要だと考える。	矢澤委員

●指定管理に関すること（事務局：環境ふれあい課）

発言内容	発言者
最近、ネットニュースで高知県立牧野植物園を含む5つの高知県立施設が、指定管理を直接指定から公募に変更するという記事を目にした。 指定管理を導入する際、発注する地方公共団体に専門知識を持つ担当者がいない場合、不十分な仕様書に基づいて選定された新たな指定管理者が施設を管理することで、それまで培われた経験やノウハウが失われるのではないかと懸念している。 また、指定管理を導入した施設では、発注者に届かない苦情や要望があるはずで、それらがこの調書には十分反映されていないように感じる。	飯塚委員
私もいくつかの県で指定管理の取り組みに関わっているが、現地確認や訪問の頻度は県によりさまざまである。 指定管理者側としては、現地確認に足を運んでもらうことで、コミュニケーションが円滑になり、施設の環境がより良くなるとともに、従業員も「県のために取り組んでいる」というモチベーションが高まると考える。	矢澤委員

●緑化全般に関すること（事務局：環境ふれあい課）

発言内容	発言者
緑化に関する課題に対応するには、人と人とのつながりが最も重要である。専門家の存在はもちろん必要だが、緑化活動に関心を持つ方々を対象とした研修の開催は効果的だと考える。	飯塚委員
近年の異常気象や大雨等により、芝生の枯れや倒木などが発生し、施設の指定管理者には想定外の労力や経費がかかっているが、静岡県としてこれらの問題にどのように対応していくのか教えてほしい。	飯塚委員
施策の質を高める観点から、情報発信の質を向上させる必要性がある。例えば、今回の会議に参加している有識者委員の発言を、SNS やホームページで情報発信することで、会議に参加できなかった方々にも緑化に関する最新情報や知識が届き、地域の自然環境に対する意識を高めることが期待できる。 さらに、さまざまな種類の研修の場で、静岡県の固有種についても周知を進めることが重要である。これにより、地域の「おもてなし花壇」や工場緑化の際に静岡県の固有種を優先的に植えるアクションへとつながることを期待する。	渡邊委員
研修会やイベントの告知だけでなく、講義の内容を小まめに SNS に掲載するなど、情報発信を強化することで、研修に参加できない一般の方々にも緑化に関する知識が広がると考える。	渡邊委員
静岡県グリーンバンクのホームページではさまざまな情報を発信しているが、一般の方々がアクセスしやすいよう、Instagram などの SNS を活用して広報を強化することを提案する。	渡邊委員
静岡県内には緑化の知識や経験を持った人材が多数いる。それらの人材をうまく活用し、静岡県の緑化施策の方向性を検討する場では、地域住民や関係各所との日常的な調整やコーディネートができ、そうした役割を負担に感じない人材に参画してほしいと考える。	飯塚委員
静岡県グリーンバンクの講座をはじめとしたさまざまな取り組みにより、多くの人材が育成されているので、今後は、その人材をどのように活用していくのかを検討してほしいと考える。 また、桜守の活動のように、地域の緑を地域住民自身で守り、育てる姿勢が求められる。 地方公共団体がどれだけ努力しても、予算や人材には限界がある。今後は、いかにして県民や市民の力を活用していくかが課題であり、重要な方向性だと考える。育成された多くの人材を「県民力」「市民力」として活用し、これからの課題に取り組んでほしい。	矢澤委員

静岡県緑化推進計画の初期段階では、美しいまちづくりを目指していたが、今後は緑化施策の質を高め、静岡県ならではの特色を生かすことが重要だと考える。そのためには、教育活動や広報活動に力を入れてほしいと思う。	渡邊委員
緑化施策における最大のキーワードは「担う」だと考える。 つまり、人や団体、組織をつなぎ、結びつける場を創出することが、今の時代において最も重要である。 国営公園内でのリードを使用しない犬の散歩や火気の使用など、かつては禁止されていた行為が、利用者のニーズを受けてドッグランやバーベキューサイトの設置という形で可能になっている。 これは、時代の求めに応じて、維持管理担当者が関係各所と調整し、より良い解決策を模索した結果だと言える。 静岡県の緑化施策も同様に、このような柔軟な視点を持って進めてほしい。	飯塚委員
静岡県に緑化推進計画が存在する背景には、過去の公害や環境破壊を受けて、静岡県が本格的に都市緑化や生活空間の緑化を推進するという大きな理念があったと考えている。 この理念に基づき、静岡県グリーンバンクが設立され、緑化施策を計画的に進めるために、外部有識者の意見や評価を受ける仕組みが構築されてきたと認識している。 しかし逆に言えば、静岡県緑化推進計画がなくなる場合、静岡県内での緑化推進の位置づけが後退したり、計画策定当時の理念が霞んでしまう恐れがある。 また、これまでは静岡県グリーンバンクの取り組みが県の施策と密接にリンクしていたが、計画がなくなることで、静岡県がどのような方針や計画に基づいて静岡県グリーンバンクの緑化施策を支援・評価するのかが曖昧になってしまうことに対する懸念がある。 静岡県グリーンバンクは全国的に見ても希少な存在であり、長年築かれてきた信頼や合意が、計画の廃止によって薄れてしまうことが心配である。 また、緑化活動を地域住民主体にシフトしていく際に、誰かが司令塔となる役割を果たさなければ、せっかく育成した人材を十分に活用することが難しくなる。	水谷座長